

第1章 東日本大震災における岩手県宮古市の災害対応

－受援（応援の受け入れ）の観点から－

1. 本報告の目的

当センターでは、東日本大震災で幅広く展開された市町村間の応援や受援（応援の受け入れ）の実態を把握するため、これまで下記の調査を行ってきた。^(注)

- 応援側の市区町村に対するアンケート調査（平成23年度）
- 応援側と受援側の間で調整を行った機関に対する聞き取り調査（平成24年度）

平成25年度は、受援側の市町村の実態を把握するための聞き取り調査を実施した。調査は、既に災害対応に関する検証を行うなど基礎的な情報が豊富な岩手県宮古市（以下「宮古市」という。）を対象とし、初動期の主要業務に関する受援の状況等について、当時直接業務に携わった方々から話を伺った（表1-1）。本稿は、その結果を報告するものである。

なお、本大震災で被災した各市町村の被害は多様であり、ひとつの市町村だけの調査で災害対応のあり方を一般化することは難しい。今後、効果的な受援体制の構築に向けて、宮古市とは異なる態様の被害を被災した市町村についても調査が必要だと考えている。

表1-1 聞き取り調査の概要

日時		調査内容	調査対象
平成25年	11月18日（月）	15:00-17:00	災害対策本部室の活動
	11月19日（火）	13:00-15:00	医療・保健活動
		16:00-18:00	食料・物資の調達・集積・配分活動
	11月20日（水）	9:30-11:30	避難所の開設・運営活動
		11:30-12:00	災害対策本部室の活動
			危機管理監(2名)
			上下水道部(1名) 保健福祉部(1名)
			市民生活部(3名)
			市民生活部(3名)
			危機管理監(1名)

(注) 調査対象は、いずれも大震災発生当時に記載の所属で勤務されていた方々である。

2. 宮古市の概況と被害

(1) 位置・面積・人口

宮古市は、岩手県の沿岸部ほぼ中央、本州では最東端に位置する（図1-1）。平成の大合併を経て、面積は約1,260km²と全国で8番目に大きな市となった（平成17年6月に旧宮古市、旧田老町、旧新里村が合併。平成22年1月に旧川井村が合併）。人口は、大震災前の平成22年10月1日時点で60,328人であったものが、平成25年12月1日時点では57,503人（約5%減）となっている（住民基本台帳）。



図1-1 宮古市の位置

(2) 地震・津波の状況

本大震災では、宮古市茂市で震度5強、五月町、鉾ヶ崎、長沢、田老、川井、門馬田代で5弱を記録した。津波の最大波は、3月11日15時26分に高さ8.5m以上を記録した